

## 令和5年度 研究助成の選考結果について

(一財)北海道開発協会 開発調査総合研究所長 黒崎 宏

当協会では、北海道開発に関する社会科学分野を対象に道内の大学等高等教育機関で研究を行っている研究者に助成を行っています。令和5年度研究助成は、「地域交通、物流」にかかわる研究を対象として、令和4年10月上旬から令和5年2月6日までの間、道内各地の大学等から応募をいただきました。

応募のあった研究については、去る3月6日、当協会

に設けた研究助成選考委員会を開催し厳正な審査を行いました。これを踏まえて今年度は、次表の1件を選考しました。

当協会では今後も本研究助成事業を続けていく予定です。毎年度作成する研究助成募集要領をご参考のうえ、意欲的なテーマで応募されることを期待するものです。

### 令和5年度 研究助成選考結果

〔「地域交通、物流」にかかわる研究〕

申請者・所属	助成研究テーマと研究の目的
* 小原 伸哉 北見工業大学 工学部地球環境工学科 教授  山内 啓高 北見工業大学大学院 工学研究科 博士前期課程	<p>【次世代の自動車及び鉄道による北海道の交通・物流のカーボンニュートラルシナリオの分析】</p> <p>北海道では洋上風力発電や大規模太陽光発電、バイオマス発電などのゼロカーボン電源と電力用蓄電池の導入が続々と計画されており、道内の電力システムの脱炭素化は今後大きく進む予定である。上で述べた電源の脱炭素化は、次世代自動車及び鉄道用の電力・代替燃料の供給シナリオに大きく関わる。</p> <p>そこでバッテリー車、燃料電池車、水素燃焼エンジン車、代替燃料車などの次世代自動車と鉄道による交通及び物流のシナリオ（次世代自動車及び鉄道の導入割合と導入速度、それらを道内の主な物流システムに段階的に適用する例）を北海道地域に導入して、脱炭素の効果と経済性を明らかにする。</p> <p>鉄道についてはディーゼル列車の削減を、次世代のバスやトラックなどで代替させるケース、欧州や中国で導入が進む水素燃料電池機関車を導入するケースなどのシナリオについて、脱炭素の効果と経済性を分析して明らかにする。</p>

\* 共同研究の代表者（※所属及び職名は令和5年3月31日現在）